

「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の重点事項

資料1

国民的資産である琵琶湖、その一方で、保全再生が困難な状況にある琵琶湖
その琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全再生するために・・・

琵琶湖保全再生対策特別委員会資料
平成28年(2016年)9月8日
琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

琵琶湖と人との共生

共感

琵琶湖の重要性や保全・再生の必要性について
国民の幅広い「共感」を得る

共存

琵琶湖の保全と多様な産業活動等
活力ある暮らしとの「共存」を図る

共有

琵琶湖の価値を将来に渡って「共有」する

琵琶湖を「守る」ために活かす、「活かす」ことで守る

琵琶湖を『守る』取組

- 水草対策
(刈取り除去、有効利用等)
- 外来水生植物対策
(徹底駆除、連携体制等)
- 水産資源の回復
(種苗放流、漁場の整備保全等)
- 水源林整備保全
(水源涵養機能維持、流木・土砂対策等)
- 鳥獣害対策
(ニホンジカ、カワウ対策等)

水草刈取(根こそぎ除去)



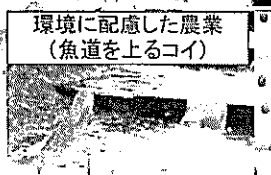
ビワマス



水源林整備



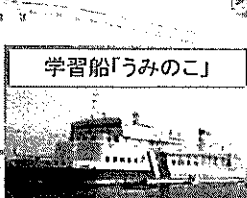
環境に配慮した農業
(魚道を上るコイ)



ボランティアによるオオ
バナミスギンバイ駆除



学習船「うみのこ」



ビワイチ



琵琶湖環境科学研究センター



琵琶湖を『活かす』取組

- 山村の再生、しがの林業成長産業化
- 体験・体感による琵琶湖とのふれあい推進
(エコツーリズム、びわ湖スポーツ等)
- 環境関連産業の推進
(水環境ビジネス等)
- 「世界農業遺産」認定に向けた取組
(環境に配慮した農業、生きものを育む水田づくり等独自システム)

調査研究

- 国立環境研究所琵琶湖分室(仮称)と琵琶湖環境科学研究センターとの共同研究、連携強化
- 琵琶湖における調査研究成果のデータベース化と知見等の共有・活用 ● 新たな水質管理手法の検討

多様な主体による協働

- これまでのNPOや関係団体中心の協働に「企業」「大学」も加わった仕組みの構築
- 下流域住民や学生、団体との協働(清掃活動、琵琶湖水源林の保全整備等) ● ボランティア活動の推進

琵琶湖の発信、環境学習

- ビワイチなどの推進による琵琶湖の魅力発信 ● 下流域や首都圏での情報発信
- 体験型の環境学習(例：近隣府県の小学生を学習船「うみのこ」に乗船) ● 琵琶湖博物館